学校だより

～ ひびきあう心　かがやく笑顔　ふれあいの丘　斎藤分 ～

令和４年　５月　３１日　６月号

横浜市立斎藤分小学校　校　長　　黒木　健

本と辞書と私

校長　黒木　健

初夏を感じさせる気候となってまいりましたが、本校保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、今月の学校だよりは、「本と辞書と私」と題して、話をさせていただきます。

これまでの「学校だより」で話をしてきたことではありますが、私は、中学２年から高校１年の終わり頃までのおよそ３年間、不登校に陥っていた時期がありました。特に中学校時代の私は、欠席、遅刻、早退を幾度となく繰り返していたため、当時、高校受験で今以上に重要視されていた内申書の内容は必然的に厳しいものとなり、出願できる高校も限られたものにならざるを得ませんでした。しかしこればかりは自己責任ですので、誰かにその責任を求めることもできません。それに加え、両親に本来ならば必要のなかったはずの気苦労をかけてしまったことに対しては、今でも懺悔の気持ちでいっぱいです。

このような話をすると、それを聞いた相手は必ずといっていい程、「不登校であった期間、あなたは何をして過ごしていたのですか。」と尋ねられ、それに対して私は、「自宅にいる大部分の時間を本と辞書を読んで過ごしていた。」と答えることにしています。それは、私の実家の中が偶然にも、本で埋め尽くされていたことと関係があります。私の父親はごく平凡な会社員でしたが蔵書数だけは半端ではなく、父親の書斎以外にも、玄関、２階へと続く階段、さらにはトイレの前付近に至るまで、常に本が堆く積み上げられていました。学校に行けなかった時期、これらの本をかたっぱしから読み漁り、時には深夜まで読み耽ることもありました。「古典文学全集」、「近代日本文学全集」「世界文学全集」にはじまり、歴史小説や文芸評論、また「ブリタニカ百科事典」などに至るまで、実家の中にある本は目標を立てた上で、次から次へと読み進めていきました。しかしそれだけでは飽き足らず、次に英語初級者向けの辞書を、数か月をかけ最後まで読み切るという目標を自身に課すことにしました。英和辞書や和英辞典は百科事典などとも異なり、そもそも「読み物」だとは一般に認識されていませんが、かといって、中級者や上級者向けの辞書はページ数もそこに収められている単語数も膨大であり、どう考えても読むには適さないと考え、何とか最後まで読み通せそうな初級者向けの辞書に挑戦することに落ち着きました。通読した英語の辞書からは、たくさんのことを教わりました。未知の単語の意味を知るだけでなく、その単語がセンテンスの中でどう使われているかを学ぶことで、英語表現が多少なりとも豊かになったような気にもなりましたし、そうした経験が土台となって、大学受験を意識した英語の学習へともつながっていきました。

何とか学校に通えるようになってきた高校２年以降、限られた時間の中で、およそ３年分の学習の遅れを取り戻すことは、私にとって大変に大きな試練とはなりましたが、何とかそれを乗り越えることができました。自宅にたまたま本がたくさんあったことで、不登校期間を多少なりとも意味のある時間とすることができ、また今になってその当時を振り返ってみると、本や辞書に触れる経験を通じて、自分自身とも向き合うことができたのではないかと感じています。この「学校だより」を執筆しながら、自分にとっての救いがごく身近にあったことに改めて感謝をしつつ、久しぶりに実家にある父親の書斎を整理してみたいという気持ちになりました。